

9月

↓アジュール舞子の草花・花木 9月

アベリア

低木で、春～秋のかなり長期に渡って、鐘形の小さい花を多数咲かせる。花の香りは非常に強い。日本列島の関東以西では真夏の酷暑の時期に花をつける在来植物が少ないため、この時期にはアベリアの花に多様なハチやチョウが吸蜜に集まる。



180909・H5



180915・H5

ムクゲ 木槿

アオイ科フヨウ属の落葉樹。すらっとした直立した樹形。花は一重咲き、半八重咲き、八重咲きのものがある。色は白、濃紅、濃紫、青紫、ピンクなどがあります。花は短命で朝咲いたらその日の夕方にはしぼんでしまう一日花です。



180908・I5



180922・J5



180915・H5



180915・H5



180921・H5

アベリア・ホ-プレイズ

7～10月に咲くスイカズラ科の花。花の特徴は枝先に円錐花序(下のほうになるほど枝分かれする回数が多く、全体をみると円錐形になる)を出し、白ないし淡い紅色を帯びた花をつける。



180908・L5

キョウチクトウ

インド原産。葉は長楕円形で、両端がとがった形。やや薄くて固い。花は、およそ6月より残暑の頃である9月まで開花する。ピンク、黄色、白など多数の園芸品種があり、八重咲き種もある。



180928・M4

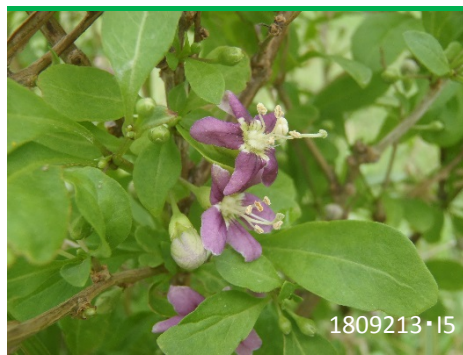
フヨウ 芙蓉

幹はよく枝分かれして上だけではなく横にも枝がよくはりこんもりと茂る。夏から秋にかけて最大直径15cmほどの花を咲かせます。花色は品種によって白～ピンクまで色幅(濃淡)があります。花は朝開いて夕方にはしぼむ一日花です。





180928・M4



1809213・I5

コバノランタナ

小葉のランタナ

コバノランタナは桃色や白色の花を咲かせる葡萄(ホク)性の低木です。ランタナと同じ仲間で南アフリカ原産の植物で寒さにはあまり強くありませんが、暖地では庭植えで越冬させる事ができます。

サルスベリ 百日紅

春に伸びた枝の先端に夏から秋にかけて花を咲かせます。花色は白、ピンク、紅、紅紫などがあります。樹皮のはがれた部分にはつるつるしているところから、「猿も滑って落ちる→猿滑り」というのが、名前の由来とされています。



180916・I5



180915・I5



180927・H5



180916・I5



180915・I5



180927・H5



180916・I5

ランタナ

真ん丸に咲く花の色が少しずつ変化していくのが特徴。基本種は咲き始めがオレンジ色で徐々に黄色に変化していきます。その様子からシチヘンゲ(七変化)の別名がついています。

クコ 枸杞

ナス科の落葉低木で、食用や薬用に利用される。開花期は夏から初秋で、直径1cmほどの小さな薄紫色の花が咲く。果実は1cm~1.5cmほどの楕円形で、赤く熟す。



180916・I5



180908・R3

↓アジュール舞子の草花・花木 9月

ローズマリー

地中海沿岸に分布する常緑性の低木です。強い芳香があってハーブとして利用される。葉っぱは3cm程の短い棒状で濃緑色、表面には光沢があります。冬から秋にかけて葉の付け根に淡紫色の花を咲かせます。満開時は枝がたくさんの花で彩られます。



180922・J5

ハマゴウ

海岸に生育する常緑の低木。本州・四国・九州からアジア東南部から南大西洋、オーストラリアにも分布している。葉の裏面には灰白色の毛が密生しており、白い。夏に美しい唇形の花を咲かせる。花冠は長さ1~1.5cmで青紫色。



180908・R3

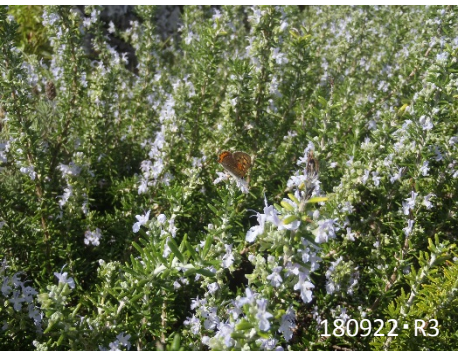
アレチヌスビトハギ

荒地盗人萩

マメ科ヌスビトハギ属(マメ科だがハギ属でないハギ) 比較的近年になって入ってきた帰化植物です。花には目のような白い点が2つと果実は三角形の独特な形状で、一つの莢に5個前後の豆が付いています。引っ付き虫です。



180922・N4



180922・R3



180922・H5



180922・N4

ヤマハギ 山萩

萩(マメ科ハギ属)は日本人には古くから愛されており、万葉集にもたくさん読まれている落葉性低木です。山萩は広く日本全土の山や野原に生える。枝はほとんどしだれない。木葉の形は楕円形で先端がややへこむことがあります。



180922・N4

ネムノキ 合歡の木

ネムノキは東北地方以南に生育する落葉の高木。梅雨の終わりから盛夏にかけて咲く花は繊細で美しい。長く伸びた糸状のものはおしべである。独特の花弁を持つマメの花とちがう印象があって、独立の科に分類する意見もある。



180922・J5



180922・N4



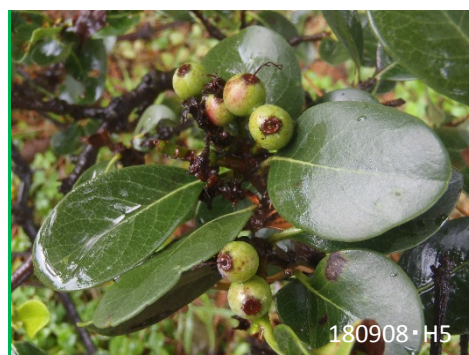
180922・M5



180922・M5



180927・Q3



180908・H5

ハマナス 浜梨 浜茄子

バラ科バラ属の落葉低木。

夏に赤い花(まれに白花)を咲かせる。根は染料などに、花はお茶などに、果実はローズヒップとして食用になる。



180922・Q3

シャリンバイ車輪梅

バラ科シャリンバイ属の常緑低木。小枝を車輪状に出して、5月に梅に似た白い花を咲かせることからシャリンバイの名前があります。花後には直径1cmほどの球形の実を付け、10月頃に熟して黒紫色になります。



180908・O6



180908・Q3



180922・I5

マルバシャリンバイ 丸葉車輪梅

葉が丸いシャリンバイです。花は白～薄紅色で、晩春に梅にいた花を咲かせます。晩夏～秋に黄緑色の球形の果実を成らせその後熟して黒くなります。



180908・O6

モッコク 木斛

ツバキ科の常緑性広葉樹。7月頃に淡いクリーム色の花をうつむきかげんに咲かせます。花後には球形の果実ができ、秋に赤く色付きます。モチノキ、モクセイとともに「三大庭木」にも数え上げられ、地味ですが風格があり、庭の主役として扱われてきました。



180922・H5



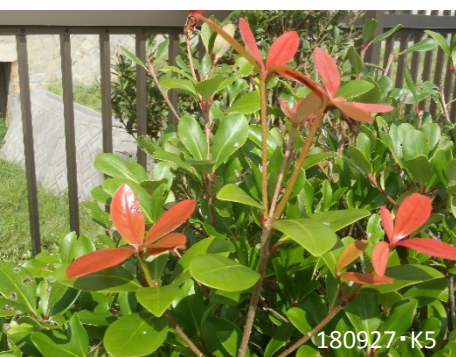
180927・K5

ボケ 木瓜

日本、中国を原産とするバラ科ボケ属の落葉低木。

枝にはとげがはえており、短い枝に花がびっしりとつきます。果実が瓜に似ており、木になる瓜で「木瓜(もけ)」と呼ばれるものが「ボケ」に転化したとも言われる。

↓アジュール舞子の草花・花木 9月



180927・K5



180909・J5



180922・H5

ピラカンサ

バラ科トキワサンザシ属の種類の総称。
常緑性の低木で、春に白い小花を咲かせ、秋から冬にかけて赤や柿色の果実をたわわに実らせる。

熟した実の横で蕾ができています。



180909・J5

ユズリハ 譲葉

葉は厚くて光沢があり色は濃い緑色で葉と枝をつなぐ軸(葉柄)の部分が赤味を帯びています。新旧の葉の世代交代がユズリハの場合「若葉が生えそろったら→古い歯が一斉に枯れ落ちる」というふうには短期間にはっきりしています。



180922・L5

トベラ 扉

4~5月になると枝先に芳香のある白い小さな花をたくさん咲かせて丸い果実ができます。果実は10月頃に熟して3つに裂け、ねばねばとして糸を引いた赤いタネが中から出てきます。雌雄異株で果実は雌株にできます。



180908・H5



180922・L5



180927・G5

アラカシ 粗樫

いわゆる「ドングリの木」の代表的な樹種であり、特に西日本に多く、関西地方ではごく一般的に庭木として使われる。枝の出方が荒いこと、幹に割れ目が多くて粗い感じがすること、材が堅いことなどから「粗い堅し」→「アラカシ」と呼ばれるようになった。

アセビ 馬酔木

馬が食すと酔ったように苦しむことに由来します。茎葉に有毒物質のアセボトキシンが含まれており人間が誤って口にすると腹痛、嘔吐などの症状を起こすことがあります。春にスズランのような甘い香りのする白い花を楽しむことができます。

マサキ 柎

葉は楕円形で縁にゆるやかなぎざぎざが入り、革のような光沢があり厚めです。夏に緑がかった白色の小花を咲かせ、冬には赤い実を付けます。熟した実は3~4つに裂けて、中から赤黄色の種子が現れます。



↓アジュール舞子の草花・花木 9月

ネズミモチ 鼠麴

葉は卵形で先端がとがってやや厚みがあり、表面に光沢があります。6月頃に先端が4つに裂けたラッパ状の小さな白花をまとめてたくさん咲かせます。果実はだ円形で秋に黒紫色に熟します。果実がネズミの糞に似ており、葉がモチノキに似ているのでこの名前があります。



180908・Q2

ソシンロウバイ

素心蠟梅

葉の展開に先立って、花径2センチくらいの花をたくさんつける。ロウ細工みたいな花弁と嫌みのない芳香が特徴。蠟梅(ロウバイ)は内側の花被片が濃い紫色になるのだが、素心蠟梅(ソシンロウバイ)は花被片全体が黄色くなる。



180908・H5

フェイジョア

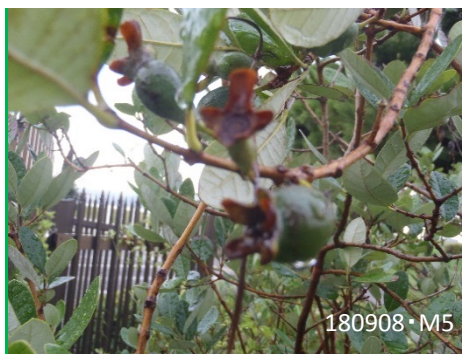
南米を原産、冬も葉が落ちない常緑性の樹木で果実を食用とする果樹です。5月～6月に径4cmほどの花を咲かせます。花びらは外側が白で内側が暗紫色、真っ赤な糸を束ねたような多数の雄しべが花の中心から放射状に伸び、非常に目立ちます。果実は最初緑色で熟すと赤く色づいてきて、中秋～晩秋が食べ頃になります。



180915・G5

クロガネモチ 黒鉄麴

5月～6月にごく淡い紫色がかった小さな花を咲かせます。花自体は小さく目立ちませんが花後に1cm足らずの果実をたくさん付け、秋になると真っ赤に熟します。たくさんの真っ赤な実を付けた秋の姿は非常に美しく冬までその姿を楽しむことができます。



180908・M5

ハナズオウ 花蘇芳

花の咲く時期は4月から5月、葉を出す前に葉の付け根に蝶型の花が数輪まとまって咲きます。花は赤紫色で、大きさは約2cmです。花茎が極端に短いので枝に直接くっついてるように見えます。満開時期は花が枝を覆います。花後にキヌサヤインゲン(豆)を短くしたような平たい豆鞘がたくさん垂れ下がり、熟すと褐色になります。



180908・Q2

ハマボウ 浜朴

アオイ科の落葉低木。花期は7-8月で、直径7cm程度の、中心が赤褐色の黄色い花を咲かせる。花の形態は同属のハイビスカス、ムクゲ、フヨウ等に似る。花は1日ではぼむが、大きな株は夏季に毎日次々と開花する



180908・J5

タラヨウ 多羅葉

モチノキ科モチノキ属の常緑高木。雌雄異株で、花期は4～5月頃、4mmほどの小さな淡黄緑色の花が群れて咲く。秋には8mmほどの小さな球形の赤い実がなる。葉の裏面を傷つけると字が書けることから「葉書」の語源ともいわれ、「郵便局の木」と定められ各地の郵便局に植栽されています。



180908・J5

ヤブツバキ 藪椿

椿の仲間は200品種を越える園芸品種が作成されていて、日本に自生している野生種はこのヤブツバキと、その変種とされるユキツバキとヤクシマツバキの3種だけです。「つばき」の語源は、厚葉木(あつばき)または艶葉木(つやばき)といわれている。

↓アジュール舞子の草花・花木 9月



180908・J5



180915・H5

オステオスペルマム

おもに南アフリカに分布する毎年花をさかせるキク科の草花。以前はディモルフォセカと混同されて売られていましたが、多年草で花茎に葉がつくなどの違いがあります。強い日差しを好み、乾燥に強いという性質は共通しています。花は日差しに反応して開き、日陰や雨の日は蕾のままになります

ヘメロカリス

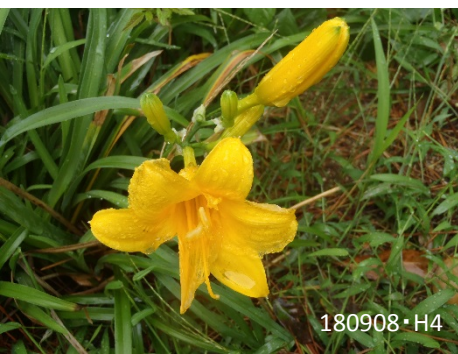
初夏から夏にかけて次々と花を咲かせる多年草。「デイリリー」の英名どおり、花は一日花ですが、1本の花茎にたくさんの花を咲かせ、何本も立ち上がるので、長期間花が楽しめます。園芸品種は2万以上あるといわれ、花色、花形、草姿などさまざまです。午前中の花が美しいです。

マリーゴールド

キク科コウオウソウ属のうち、草花として栽培される植物の総称。一重、八重、カーネーション咲き、クラウン咲きなどの花姿(咲き方)があり、花色と花姿の組み合わせで実に多彩な品種があります。



180927・F6



180908・H4



180915・H4

ゼラニウム

花は一重、八重などがあり、色は赤、紅、淡紅、ピンク、サーモンピンク、白などがあります。葉は丸っこく、馬のひづめ型の黒っぽい斑紋が付きます。茎は多肉質で太く、葉のつけ根から花茎を伸ばして先端に数十輪の花をボール状にまとめて咲かせます。

ペチュニア

初夏から秋にかけて咲く草花で、夏の花壇には欠かせない植物の一つです。品種改良も多く、500種以上の園芸品種があります。大輪、中輪、小輪種があり、八重咲き、一重咲きなどのバラエティーもあります。別名「ツクバナアサガオ」とも言います。

ガザニア

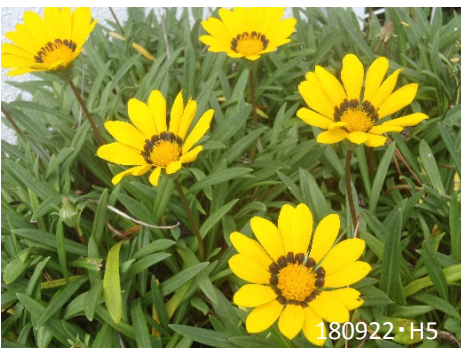
主な開花期は初夏-秋で長く伸ばした花茎の先端に1輪の花をさかせます。色は黄色、ピンク、オレンジ、赤、白などがあり、蛇の目模様や2色咲き(バイカラー)、ストライプなど非常にカラフルです。花は晴れた日中に開き、日の射さない曇りや雨、夜間は閉じます。



180927・H5



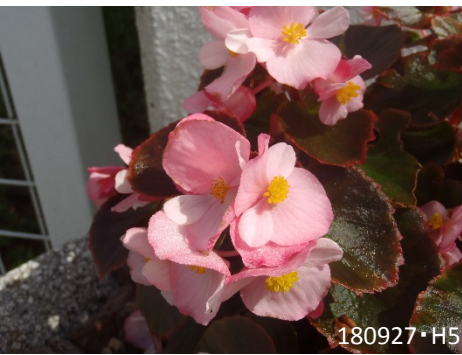
180915・H5



180922・H5

ベゴニア

シュウカイドウ科シュウカイドウ属に属する植物の総称。原種を交配し、多くの種や品種がつくられたため、それらの性質は多様である。共通する特徴は、葉の形が左右非対称であること、花は雌雄別であり雄花は4枚、雌花は5枚の花びらをもつことなどである。



180927・H5



180921・H5

アキノノゲシ

秋の野芥子

花がノゲシに似てて秋に咲くことに由来しますが、ノゲシとは属が違い、草形も異なります。

茎や葉を傷つけると白い乳液を出すから「チチクサ」の別名があります。黄色い花のノゲシに対し、アキノノゲシは白みをおびた黄色です。

マツバギク 松葉菊 (サボテンギク)

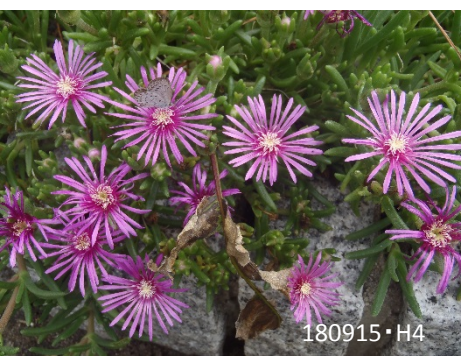
ハマミズナ科マツバギク属の多年草。葉は松葉のように棒状で、菊をイメージさせるような花を咲かせる。花はピンク、白、オレンジ、黄、紫、赤など多彩で、朝に花が開き夕方に花が閉じる。



180921・H5



180913・I5



180915・H4

ハクチョウソウ(ガウラ)

北アメリカ原産の多年草です。長く伸ばした茎の先端に少しピンク色がかった白花を春から秋の長期間絶え間なく次々と咲かせます。花の大きさは1.5cm、細長い花茎に小さな蝶が舞っているように見え、その花のかたちから「ハクチョウソウ(白蝶草)」



180922・I5

ヒガンバナ彼岸花 (曼珠沙華)

お彼岸の季節、田んぼのあぜ道や土手で見かけることが多いが、これはノネズミがあぜ道や土手に穴を開けるのを、彼岸花の毒性のある球根を植えることで防ぐためと考えられる。赤のほか白、黄色の花弁をもつものがある。



180927・I5



180922・I5



180917・H5



180927・I5



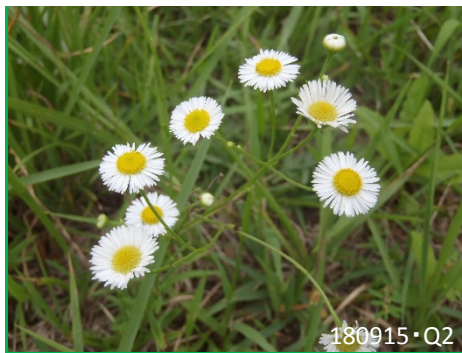
180922・H5

↓アジュール舞子の草花・花木 9月

ブタナ 豚菜 (タンポポモドキ)

キク科エゾコウゾリナ属の多年草。ヨーロッパ原産で、日本では外来種(帰化植物)として各地に分布。

環境省指定要注意外来生物



180915・Q2



180915・N4



180915・Q2

アレチノギク 荒地野菊

秋に芽生え、ロゼットで越冬して春から初夏に開花する1年草、夏には30 - 50cm程度まで生長。明治の中頃に帰化し、一時ははびこったが近年は見るのが少なくなった。同属のオオアレチノギクにくらべ、草丈が低いので負けてしまったのではないと思われる。



180915・H5

ツクサ 露草

二つ折れになった苞の間から青色の花が次々と咲く。花は一日花である。早朝に咲き出して、午後にはしぼんでしまう。

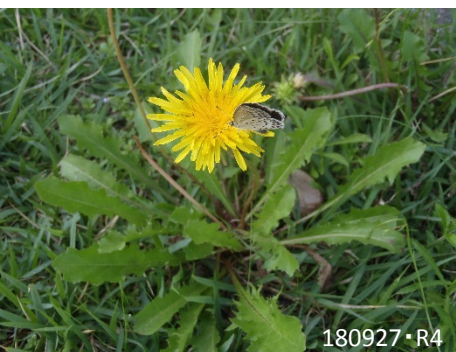
朝咲いた花が昼しぼむことが朝露を連想させることから「露草」と名付けられたという説がある。



180922・I5

セイヨウタンポポ 西洋蒲公英

キク科タンポポ属の多年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。環境省指定要注意外来生物。日本の在来種とは外側の総苞の反る点異なる。



180927・R4



180915・M6

マルバツクサ

丸葉露草

花は早朝に咲き出して、午後には萎んでしまう一日花です。在来種の露草は葉先が尖っているのに対し、丸葉露草は丸く、葉幅が広く、葉の縁が波立っている。花は非常に小さく開花季節は露草よりも少し遅めです。



180921・H5

ヒメジョオン 姫女菀

キク科ムカシヨモギ属の一年草。背の高さが50-100cmにもなる。同族のハルジオンと共に道端でよく見かける雑草であり、環境省指定要注意外来生物。

ヒナギキョウ 雛桔梗

キキョウ科ヒナギキョウ属の多年草。日当たりの良い原野に生育する。高さ20~40cmになり、7月から9月に小型ではあるが長い柄の先にキキョウにそっくりの花をつける。

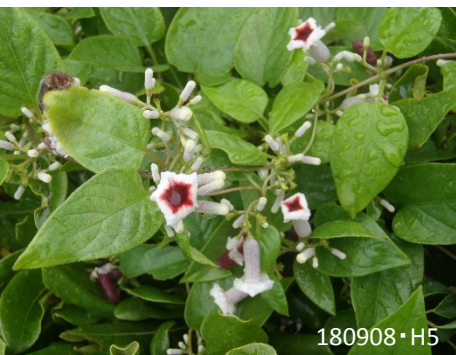
↓アジュール舞子の草花・花木 9月

ヘクソカズラ 屁糞葛

蔓性多年草で、至る所に多い雑草。葉や茎に悪臭があることから漢字で書くと屁糞葛の名がある。

古名はクソカズラ。

別名はヤイトバナ、サオトメバナ。



180908・H5

ヤハズソウ 矢筈草

東アジア原産の一年生マメ科雑草で、全国に分布しています。葉は長さ1-1.5cmの長楕円形の3枚の小葉からなる複葉を展開し、根元から多数の匍匐茎を発生させて群落を形成します。和名のヤハズソウは小葉を引っ張ると支脈沿いに矢筈(やはず)のような形に切れることからこの名があります。



180927・N6



180927・H5



果実です

180927・N6

ノブドウ 野葡萄

蔓を巻きつけながら成長するブドウ科ノブドウ属の蔓性落葉低木。夏の花より秋のカラフルな果実が目立ちます。花は小さな薄黄緑色の五弁花で、果実は小球状で成熟の過程で、白から紫、赤、空色など様々な色になり美しいです。



180908・M6

葉を引っばると矢筈形に千切れることからこの和名が付けられました。



180927・H5



180922・N6

アメリカタカサブロウ

亜米利加高三郎

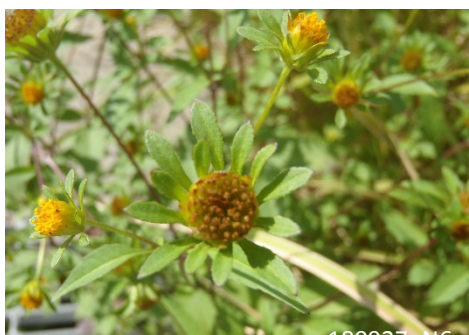
昔からある史前帰化植物の高三郎に遅れてやってきたので亜米利加高三郎という名前が付けました。大先輩の高三郎と比べ頭花がやや小さく、葉が細長く葉の縁に鋸歯(キョシ)があり、種子の周りがないと言われています。



180922・N6

アメリカセンダングサ

北アメリカ原産の一年生草本であり、近年、西日本ではコセンダングサが繁茂し、アメリカセンダングサは少なく成りつつある。頭花には舌状花はなく、総苞が葉状で四方に開く。ウールの服やセーターなどにくっついて嫌われる「ひっつき虫」である。



180927・N6



180915・N4

↓アジュール舞子の草花・花木 9月

イタドリ 疼取 虎杖

タデ科の多年生植物。別名は、スカンポ、イタンポ、ドンガイ、スッポン、ゴンパチ、エツタン。雌雄異株で、雄花はおしべが花弁の間から飛び出すように長く発達しており、雌花はめしべよりも花弁の方が大きい。夏には、白か赤みを帯びた小さな花を多数着けた花序を出す。



180927・I5

キンエノコロ

イネ科エノコログサ属の一種で、一年生植物の雑草である。穂の形がエノコログサとよく似ているが、穂にびっしり生える毛が、黄緑色のエノコログサと異なり、黄色である。その黄色が光を受けるさまを金色と見たのが名の由来である。



180927・H5

チガヤ 茅萱

ごく普通に見られるイネ科の多年草である。日当たりのよい空き地に一面にはえ、白い穂を出す。かつては食べられたこともある、古くから親しまれた雑草である。



180909・K5

ヨモギ 蓬

いたるところに自生し、地下茎はやや横に這い、集団を作る。茎は立ち上がり、やや木質化する。葉は大きく裂け、裏面には白い毛を密生する。夏から秋にかけ、茎を高く伸ばし、目立たない花を咲かせる。特有の香りがあり、春につんだ新芽を茹で、おひたしや汁物の具、また草餅にして食べる。



180922・I5

アキノエノコログサ

イネ科エノコログサ属の一種で、一年生植物の雑草である。小穂はエノコログサより大きめで、花序は緑色で、時に紫色で、先が垂れさがる。



180927・L5

エノコログサ

1年生草本である。ブラシのように長い穂の形が独特な雑草である。夏から秋にかけてつける花穂が、犬の尾に似ていることから、犬っころ草(いぬっころくさ)が転じてエノコログサという呼称になったとされる。俗称 猫じゃらし。



180922・N4

メリケンカルカヤ

北アメリカ原産の帰化植物である。乾燥した荒地から放棄水田、湿地まで広く生育し、株立ちとなって次第に繁茂する。荒地にしっかりと根を張っており、簡単には抜き取ることはできない。全体的に毛が多い植物で、花は9月頃に咲き、これまた長い毛が目立つ。



180908・K6

メシバ 雌日芝

日本全土に生育し、乾燥で他の雑草が枯れても盛んに繁茂している夏の代表的な強害草である。オヒシバに比べ弱々しい感じがすることからついたもので、「日芝」は日によく当たるところに生えるという意味である。

↓アジュール舞子の草花・花木 9月



180915・L5

イヌクグ (カヤツリグサ属)

乾燥気味の日当たりの良い所を好む暖地性の多年草。草丈30センチ～60センチになり、根元より三稜形の長い茎を伸ばし、茎の先に葉と同形の包葉を3個～5個出す。小穂はブラシ状に開出してつけ、小穂の長さ4ミリ～5ミリの円柱形で先端に小花をつける。



180927・K5

オヒシバ 雄日芝

世界の熱帯から暖帯に分布する一年生草本。メヒシバに比べて強健なイメージがあり、オヒシバと呼ばれる。路傍や畑の周辺などの荒れ地に生育する。メヒシバに比べ、踏みつけに強く、茎は根元で株立ちとなり、踏みつけがある場合には斜上する。



180908・J5

バイカウツギ 梅花空木

ユキノシタ科バイカウツギ属の落葉低木。6月～7月に枝先に白いさわやかな花を咲かせます。また、茎が中空のためにウツギの名前がついています。



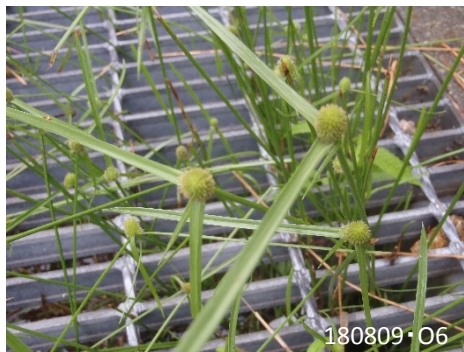
180927・Q3

ヒメクグ 姫莎草

カヤツリグサ科の多年生雑草で北海道～九州北部に分布します。湿った場所に発生しやすく、高さ10-30cmの群落を形成します。花茎の先端に、丸っこいくす玉のような穂を、1個だけつけるのが特徴である。



190915・N4



180809・O6

シロタエギク 白妙菊

寒さには強いが高温多湿にやや弱い常緑多年草で、草丈50～100cmくらいになり、茎の下部は木質化する。葉は長さ10cmくらいで羽状の切れ込みがあり、茎や葉は緑だが白い繊毛があり、6月か7月に黄色い花が開花する。



180908・Q2

チチコグサ 父子草

キク科ハハコグサ科の植物。母子草は春の七草のオギョウの別称で親しまれ野の花として風情があるが、父子草は形は面白いが地味な植物。母子草が白い毛に包まれた柔らかな姿に黄色い花が映えるのに対して、父子草には全体に色気が少ない。そこが父子草たるゆえんかも知れない。



180922・J5

ハコネウツギ 箱根空木

スイカズラ科タニウツギ属の落葉低木。一本の木や枝に赤花と白花をつけることから源氏の赤旗、平家の白旗をもじって源平空木とも呼ばれている。

180922・J5

ひょうたん

瓢箪/葫蘆

ウリ科ユウガオ属のつる性の一年草。長くつるを伸ばして生長し、夏から秋にかけて縁にフリルがきいた白い花を咲かせます。花は夕方から朝にかけて咲く夜行性です。



カタバミ 片喰

地下に球根を持ち、さらにその下に大根のような根を下ろす。匍匐茎をよく伸ばし、地表に広がる。このため、繁殖が早く、しかも根が深いので駆除に困る雑草である。

